

# 県民ガッパ

目で見る県勢



1963



この鉄の流れが豊かな県土を築くのだ

### 県勢総合計画のはなし

私たちの住んでいる富山県をより明るく、豊かに発展させるには、県内のどの地区もお互いにつながり結びつき、さらに北陸経済圏、中部経済圏とつながりを保ちながら、もっとも望ましい方向へ導いてゆくことが大切なことです。このためには、都市と農村の共に栄えてゆくための好ましい在り方や交通や資源、産業の開発などを上手に組み合わせてゆくことです。

県では昭和27年、全国にさがかけて「富山県総合開発計画」を作り、さらに昭和32年、「修正4カ年計画」をたて、県政のよりどころとして実行し、私たちの生活は大きく前進しました。確かに計画が終了したことは、ひとつの段階を上ったことを示すものですが、もっと豊かな住みよい郷土にしたいという私たちのねがいは、これで終わったわけではありません。ここに「富山県勢総合計画」が、10年後の県民の努力目標を示すとともに、調和のとれた県行政5カ年計画として登場したのであります。

この総合計画に貫かれていく考え方は、県経済が安定して発展を続けられるように、みんなの働き口と収入をふやしながら、すべての県民がより健康で文化的な生活がおくれるように努力するということです。

1. 産業を発展させる基礎として重要な道路、港、鉄道、空港などを整備するとともに電力、工業用水、用地を確保する産業基盤の整備と充実をはかります。
2. 本県の工業の仕組を、技術が高く大きな発展が期待できる工業に改めて行くことにし、中小企業や農林漁業の経営を近代化します。
3. 産業の発展にテンポを合わせて健康で科学的な技術や知識を身につけた技術者の養成を旨として、教育の充実を進めます。
4. 経済の躍進のかけにかけられがちな社会保障を増大し、上下水道、じんあい処理にも大いに努力して健康で文化的な生活が営まれるようにします。
5. これらの課題を力強く推し進めてゆくために、それぞれを組み合わせ政治も経済も文化も一体となるので、日本海沿岸の中心として躍進することになるのです。一口にいえば「県勢総合計画」は、県民の生活をより豊かにするために総合的に考えた、努力目標といえます。

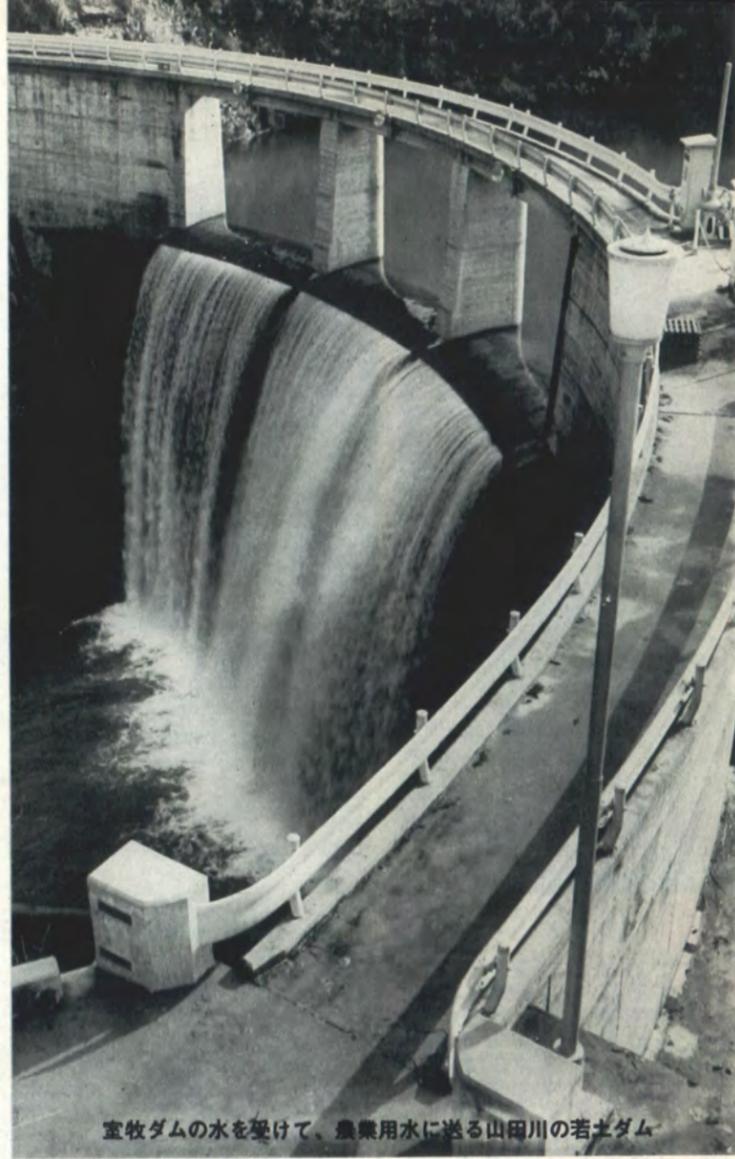
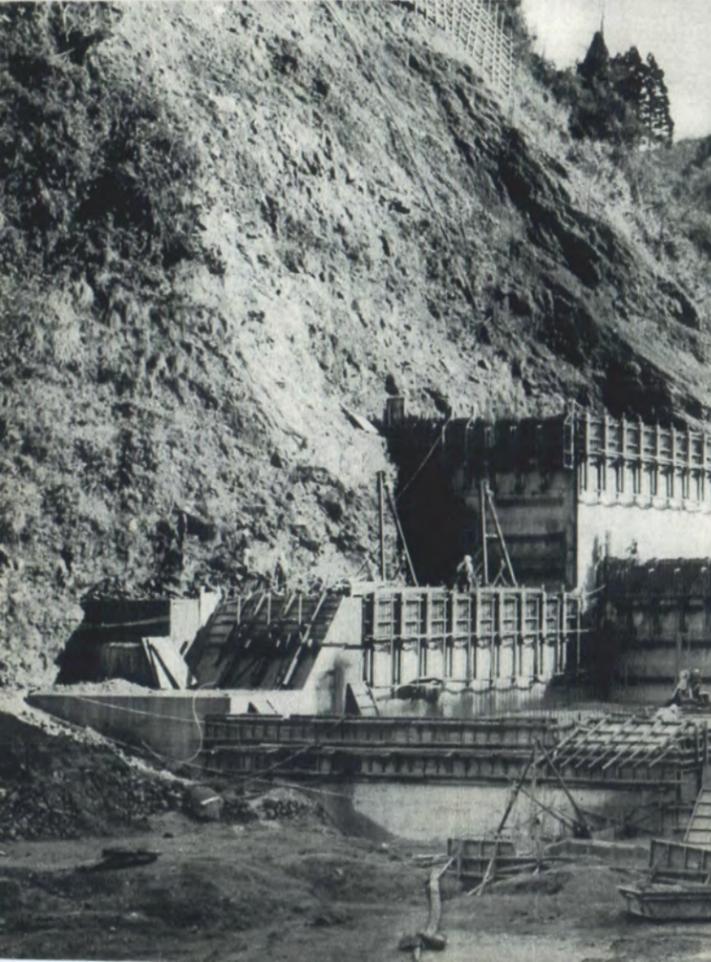
「野の夢」畜産振興は牧草から



小矢部川総合開発の刀利ダム（昭和40年度完成予定）



上市川総合開発の上市川ダム（昭和38年度完成予定）

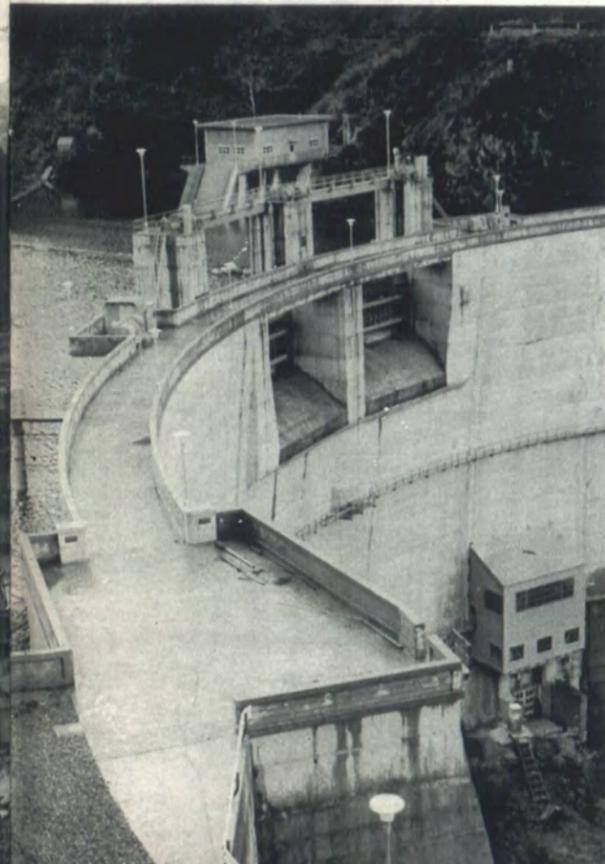


室牧ダムの水を受けて、農業用水に送る山田川の若土ダム



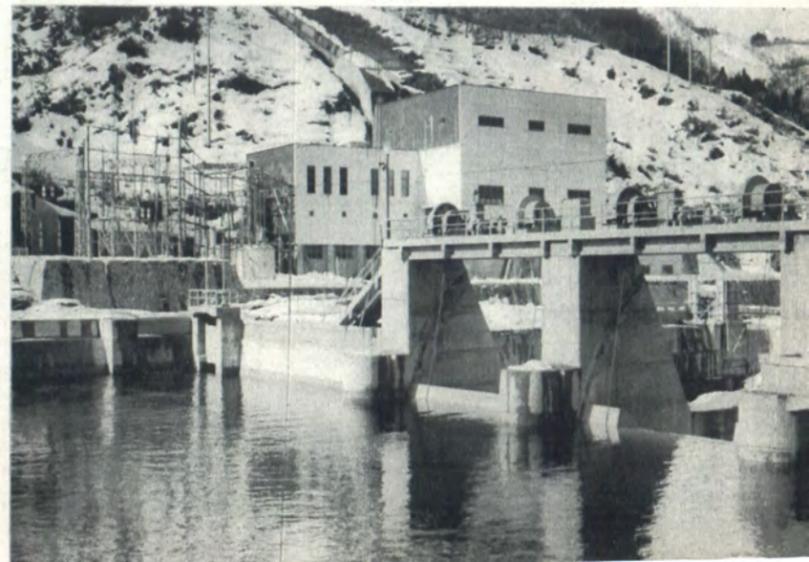
完成間近い八尾ダム

井田川総合開発の中核、室牧ダム



本県の河川は大小合わせて約百本にも及び、豊かな水資源に恵まれています。ところが水量が一定しないため、たびたび大洪水に見舞われ、また、少し日照が続くと、かんがい用水にも不足して農民を悩ましてきました。洪水調節、かんがい用水、発電、上水道、工業用水の確保などを一度に解決しようというのが、多目的ダムです。井田川水系で昭和32年に着工5・570ヘクタールを洪水から守り、2・101ヘクタールにかんがい用水を補給し、5発電所でおこる電力は、5万5000キロワットという立派な成果をあげて完成しました。さらに約22億円で上市川にまた、小矢部川や、富山新港と結ばれる和利川にと着々総合開発が進められ、洪水の不安からこの地方の人々を守るだけでなく、産業をおこすのに大きな力となっています。

大長谷第2発電所と中山ダム

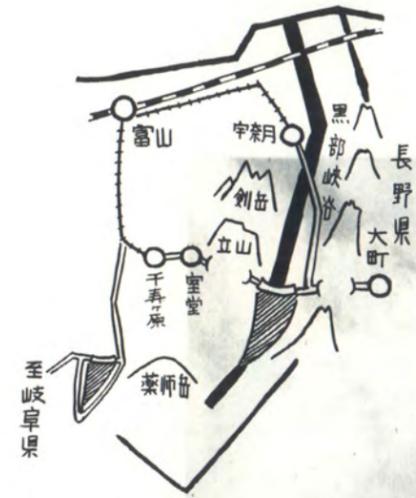


# 立山—黒部—有峯の開発



雄大な立山連峯—雄山頂上から浄土山 五色ヶ原 薬師岳を望む—

黒部峡谷の景勝S字峡



日本の屋根といわれる中部山岳地帯、なかでも立山連峯は、雄山、剣岳、薬師岳など3,000メートル級の山々が立ち並び、その景観は、国際的山岳観光地として、世界的なものといつて過言ではありません。この一帯を国民のレクリエーションの場として開発しようというのが「山の夢」T・K・A計画です。

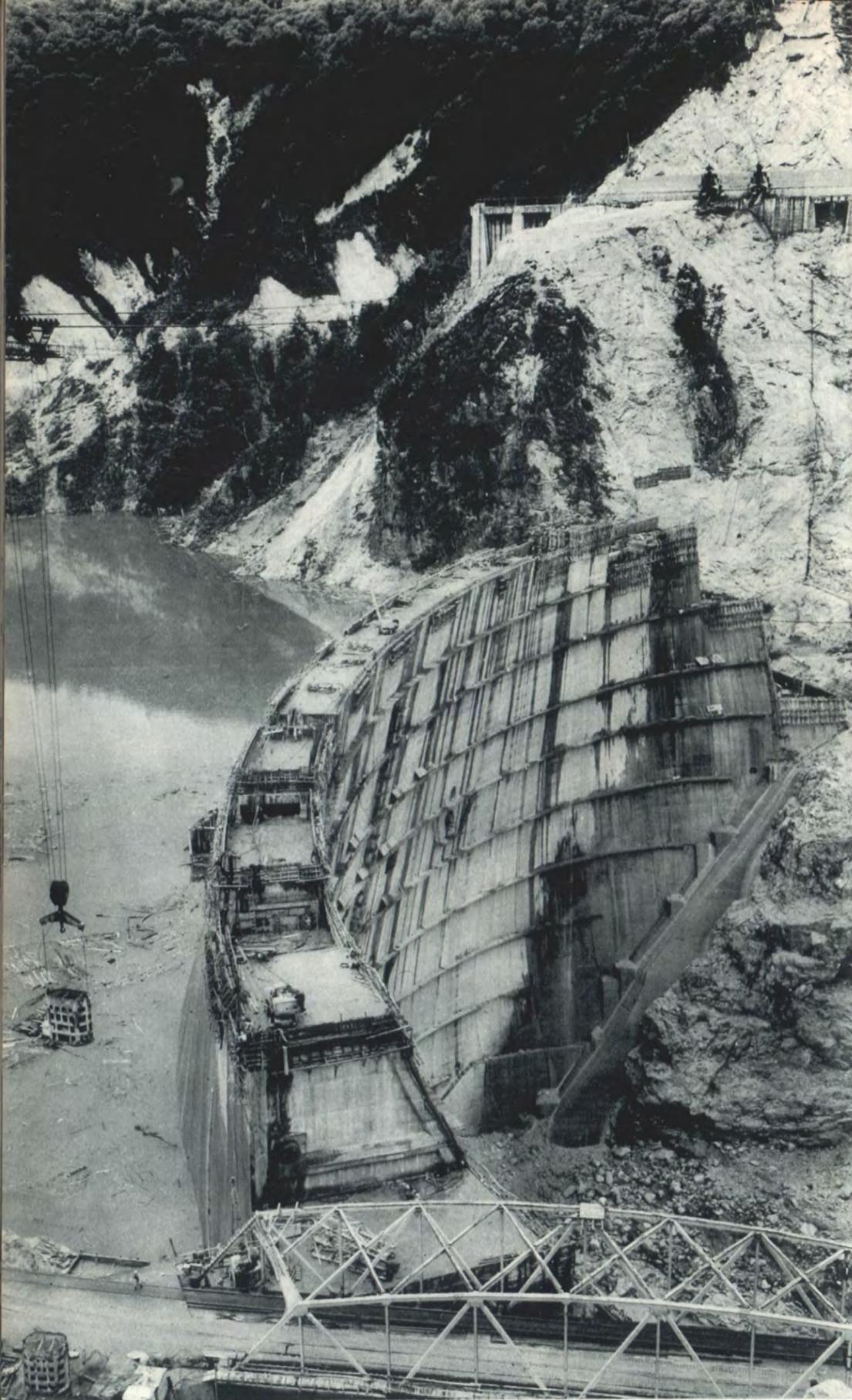
富山から弥陀ヶ原を経て室堂へ、ここから立山トンネルで黒部峡谷を降り、長野県と自動車道路で結ばれます。特に立山トンネルの完成は、富山—東京間を密接に結びつけることにもなり、産業発展の上でも大きな成果が期待されているのです。これが「T」即ち立山の観光開発に当たります。

4ダムへ、これが「K」で代表される黒部の観光開発です。薬師岳のふもと有峯も、有峯人造湖を一巡する自動車道路の完成とともに、森と湖のハイランドとして脚光を浴びてきました。これが「A」即ち有峯の観光開発です。これらの一帯を自動車道路で結びつけることによって美しい郷土の姿をひろく国際的なものに高めてゆくことになりま

3,015メートル雄山頂上のにぎわい



室堂と黒部峡谷を結ぶ立山トンネル建設へ—室堂の地盤調査—



アーチダムでは世界第2位、黒部峡谷にいとむ黒4ダム

# 森林資源

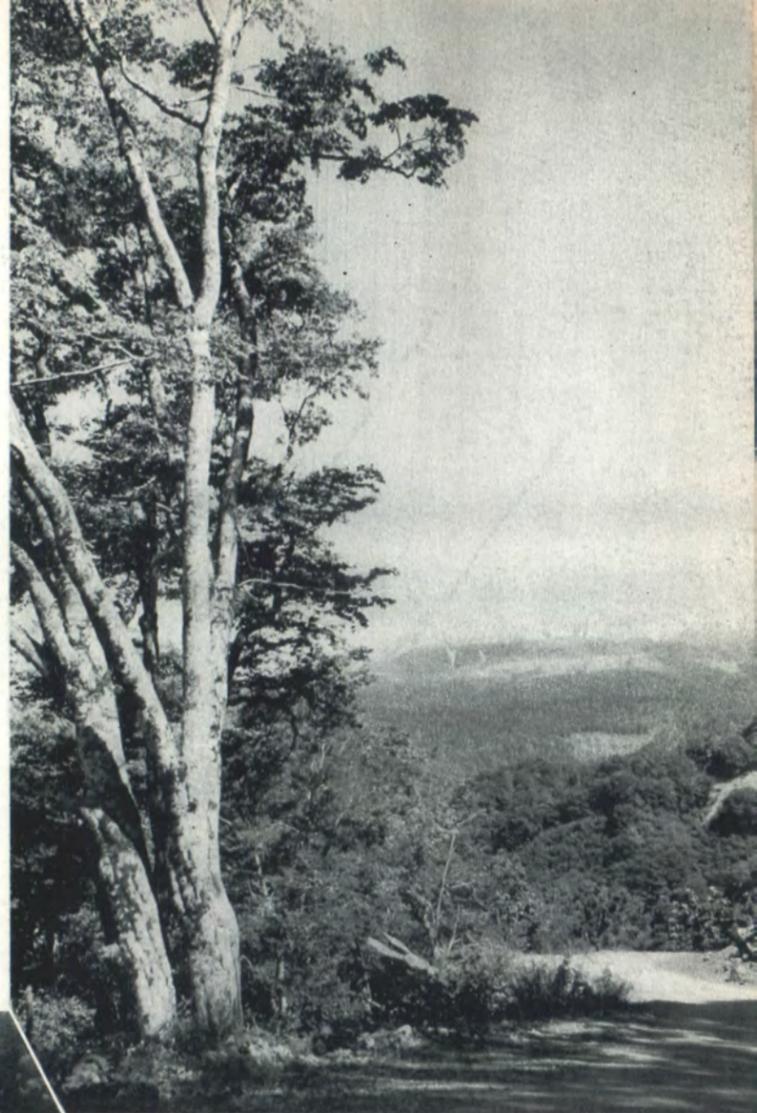
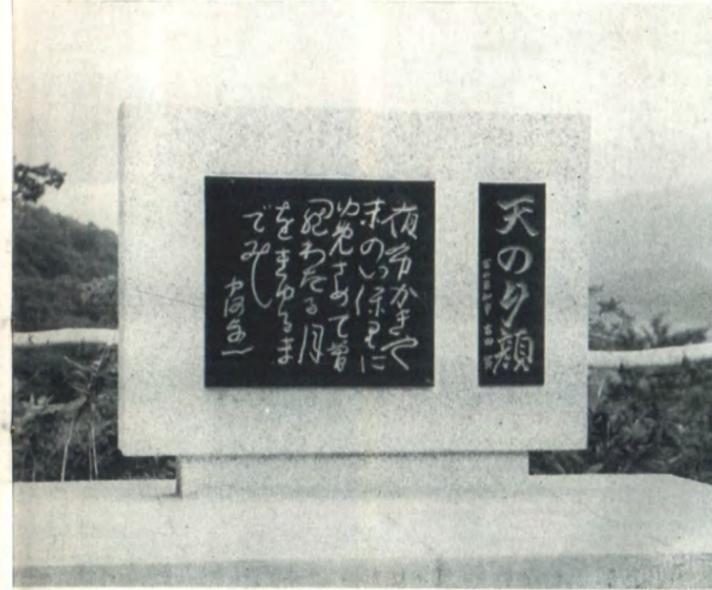
本県は山地が多く林野面積が非常に大きいにもかかわらず合理的な林業経営を行なってきたとはいえません。そのためには、優秀な苗を植林してすべての山を林で包むことです。それと同時に林道も整備し、機械を使った林産資源の開発を続けてゆかねばなりません。林業の目標額は40年に9億6千万円、45年には11億2千万円にまで高められるのです。

造林試験地  
面積 263a 植栽 昭和34年10月  
植栽樹種 スギ カラマツ アカマツ エノマツ  
トドマツ アカエノマツ ストロブマツ ヒメノマツ  
チヨウセンマツ トイトヒヒ モミ クサアザミ  
イタヤホウソウ シラカンバ  
富山県有峰森林管理事務所

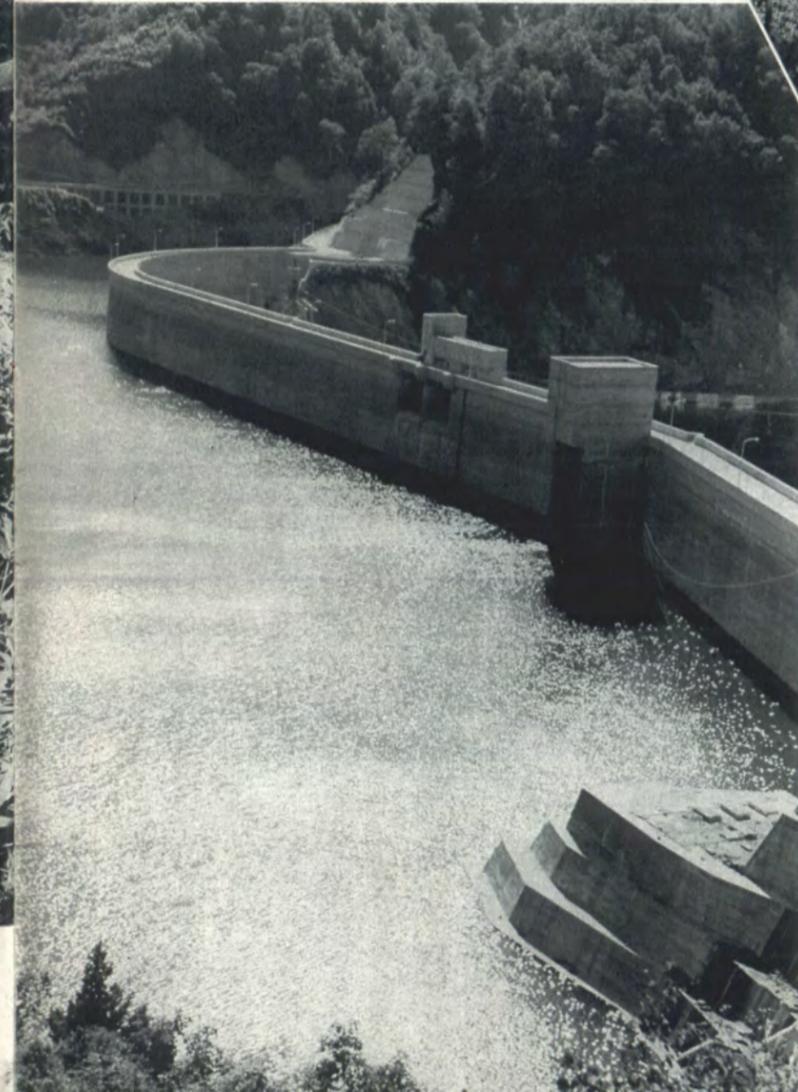


すくすく伸びる試験地の若木

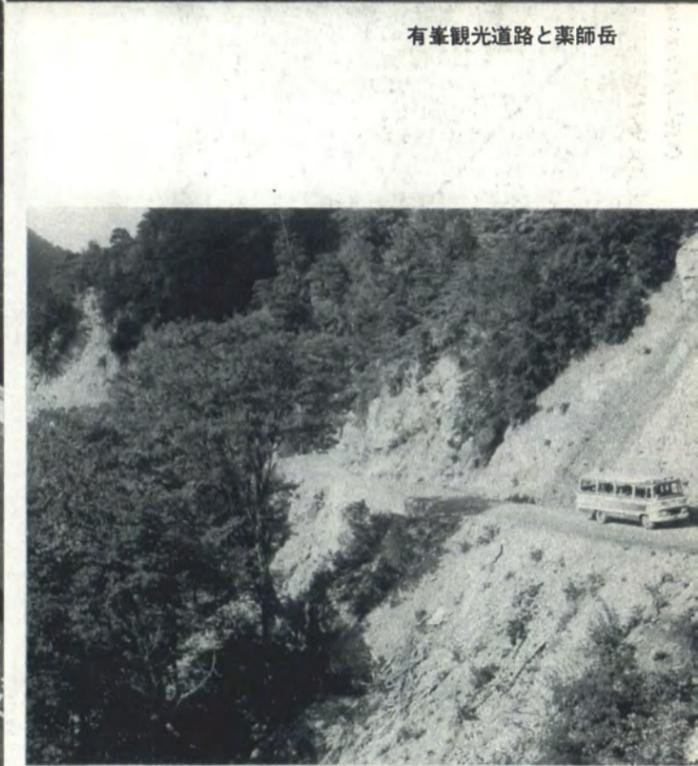
有峯を舞台にした中川与一の『天の夕顔』文学碑（有峯大多和峠）



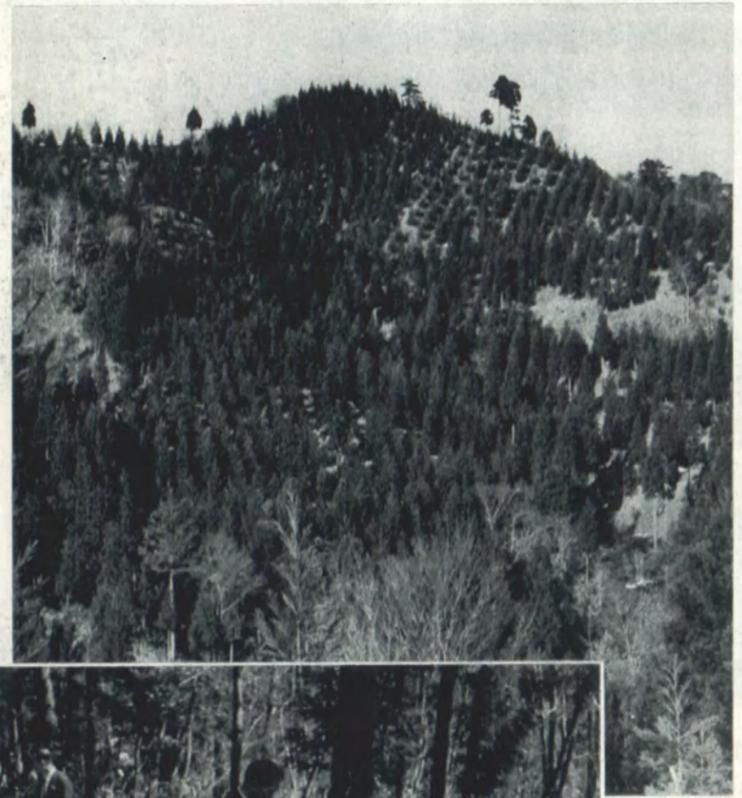
優美な姿を湖面に浮べる有峯ダム



有峯観光道路と薬師岳



有峯へ向う観光バス



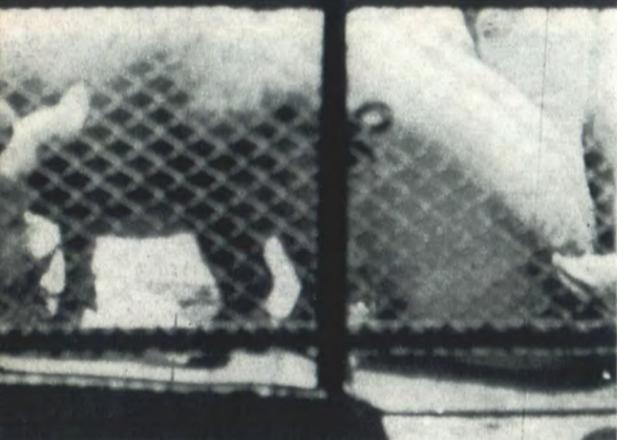
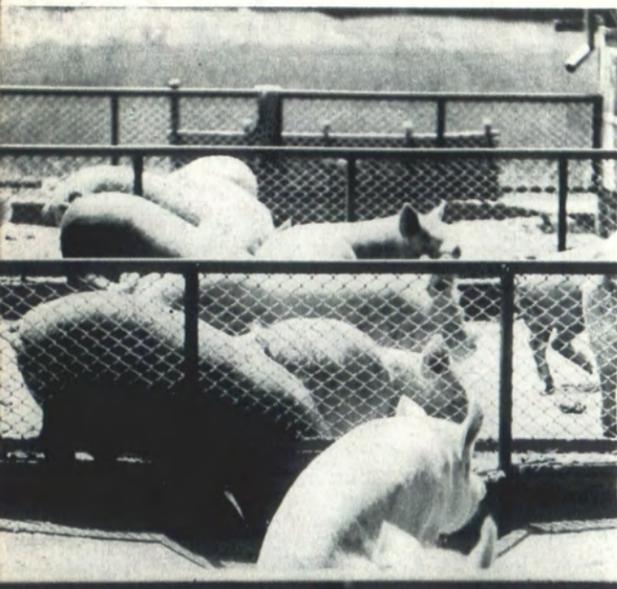
美しく植えられた立山杉



林業も機械化—チェーン・ソーで伐木—



緑で包もう野も山も—学校林に植樹する中学生—



豚のアパート (郷中町宮川)

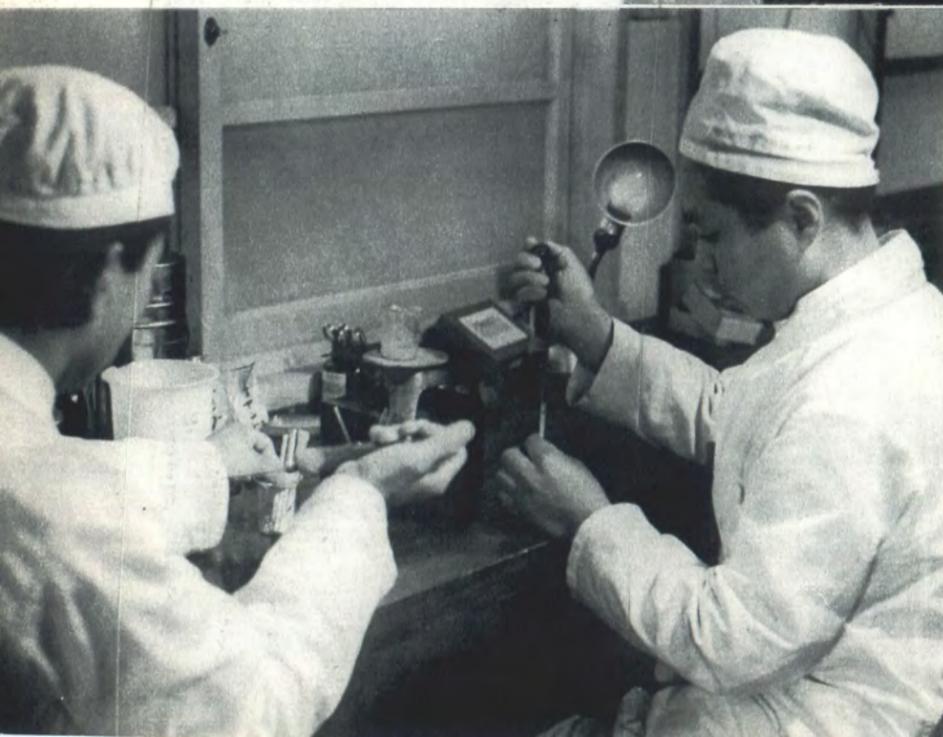


ヘリコプターを使った農薬撒布 (高岡市国吉地区)

畜産振興の拠点—県畜産試験場の全景—



田や畑の体質改善は大型トラクターで



すぐれた品種をひろめよう—県畜産試験場の人工受精センター—



白菜の 1,000トン共同出荷 (黒部市荻生)

農業が工業や商業と足並みをそろえて成長していくためには、体質改善が重要な課題となってきます。現在の農業のあり方を反省して、生産性を高めるような生産の方式を考え、また、経営のあり方も近代化して、市場を拡大する方向へ進めてゆかなければなりません。「野の夢」といわれる自給飼料をもととする畜産を柱とした農業がそれです。

また、トラクターや、ヘリコプターまでも動員した大がかりな機械化や、米とほかのいろいろな作物を経営にとり入れた多角経営も県土に根をおろし、次第に成果があがってきました。

みんなが歩調を合わせて計画的に作り、上手に売ること、これが新しい農業の姿です。農業は企業としての経営へと生れ変わりつつあるのです。

# 海の幸を追って



完備した漁業基地—新湊漁港—

北洋の漁場を目指して—魚津港—



虹マスの養殖も進められている（大門町浅井）



本県は今まで沿岸漁業が中心でしたが、漁民の数が多いため、魚の量が減ったことなどで、漁家の暮しは不安定なものとなっています。そこで漁業を近代的な産業として確立するとともに、安定した漁家経営を目指して漁港を整備拡充し、漁船を整備して、とくに沿岸漁業の振興と沖合漁業への進出を重点に進められています。

新しい漁場を求めて—県漁業調査指導船（立山丸）



新しい農業は機械化から—県農業機械センター—



ため池工事に活躍するレキドザー（氷見市女良）

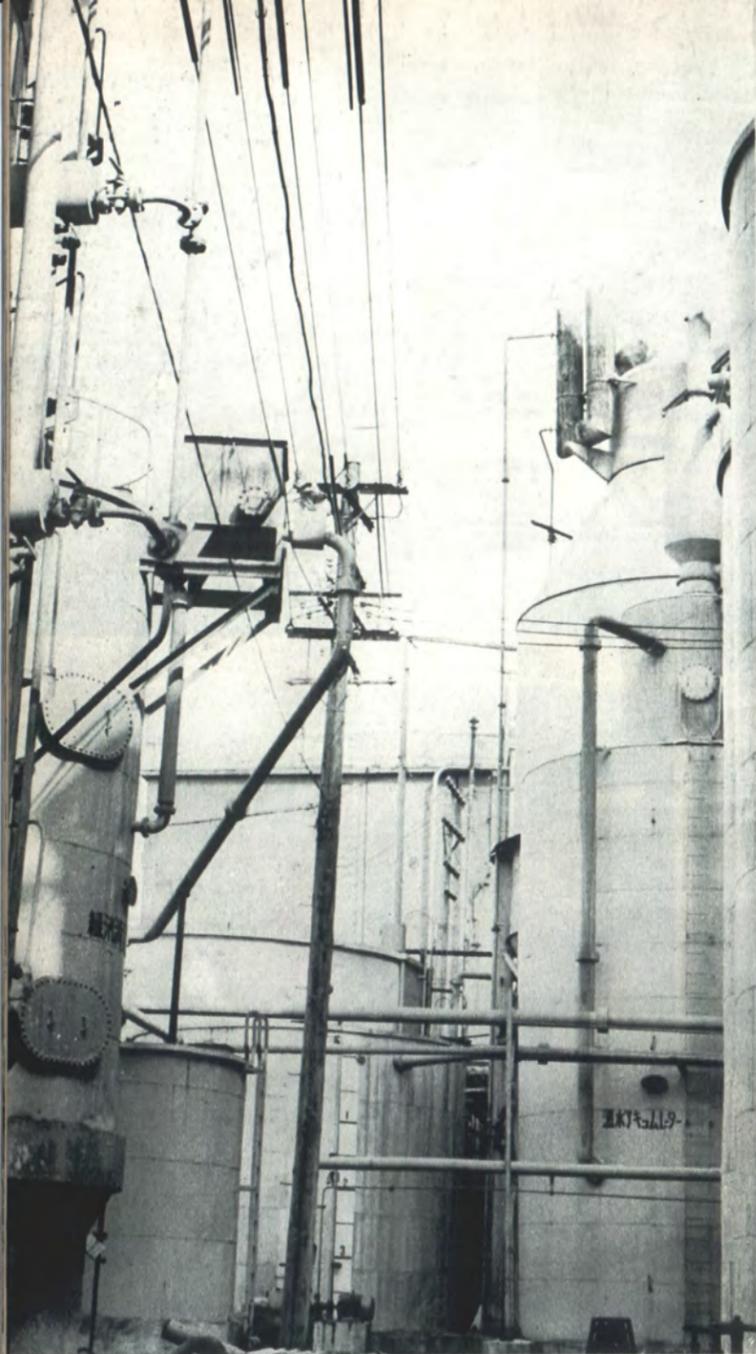


ナシもたわわに実った（呉羽町）



マッシュルーム—西洋まつたけ—（石動町松沢）

# 躍進する工業



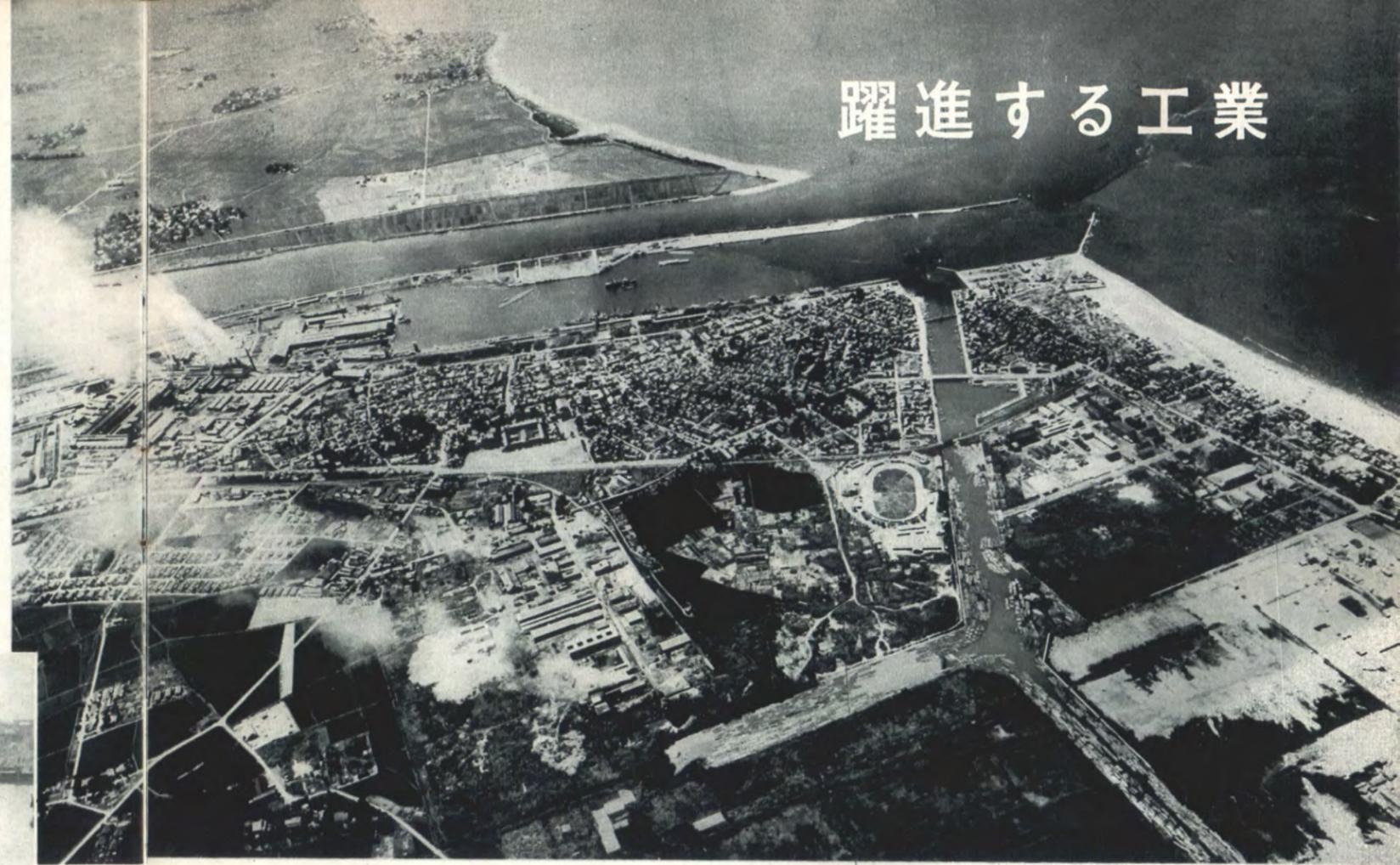
パイプラインとタンクで象徴される化学工業



機械製造工業（ボールベアリングの組立）



北洋材で紙パルプ工業



富山工業地帯と富山港

県経済の発展を支えるもの、それは工業です。豊かな電力と工業用水を基礎にして全国でも有数の工業県として発達し、日本海沿岸では第一の工業地帯を形造っています。

主な産業は、化学、繊維、紙パルプ、鉄鋼、機械の五大産業です。しかし飛躍的に生産を高めるために、富山新港を築いて、背後地に臨海工業地帯を建設し、石油化学コンビナートと、鉄鋼コンビナートを造成し、新しい時代の新しい工業へと脱皮して行きます。

また工業の体質改善としては、県下の適地に工場が集团的に立地するように、工業用地開発も進められます。特にこれから新しく立地する工業のうち、重化学工業は富山新港を中核とする臨海工業地帯に、軽工業と加工工業は内陸部に立地するというように計画されています。機械工業センターのように集团的に立地する傾向に変わってきました。

また、合成樹脂、石油化学、機械製作など、ますます成長を期待される工業を誘致します。

こうして45年の生産は31年から33年の平均一・九〇億円の四・二倍五、〇三・八億円になるのです。

全国に先がけて誕生した中小企業団地（富山機械工業センター）



田中精密工業株式会社



豊かな電力で電炉製鋼



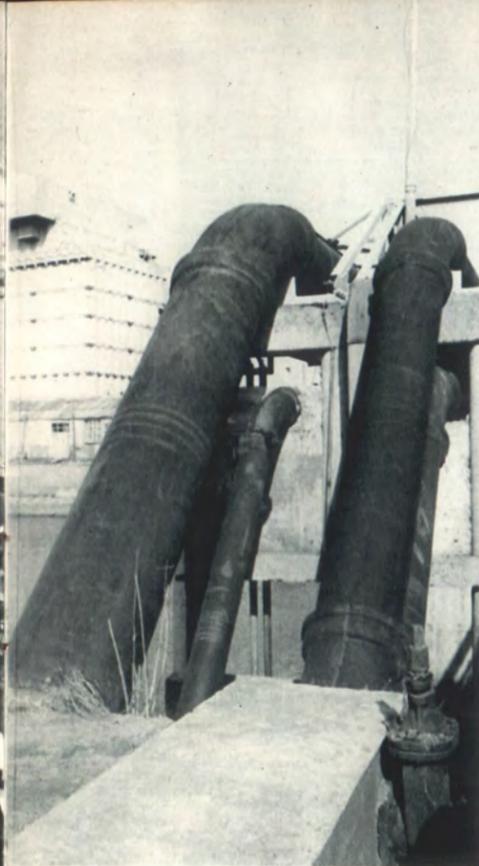


電波の灯台—コースピーコー—(伏木港)



整備された港

伏木港と石油基地



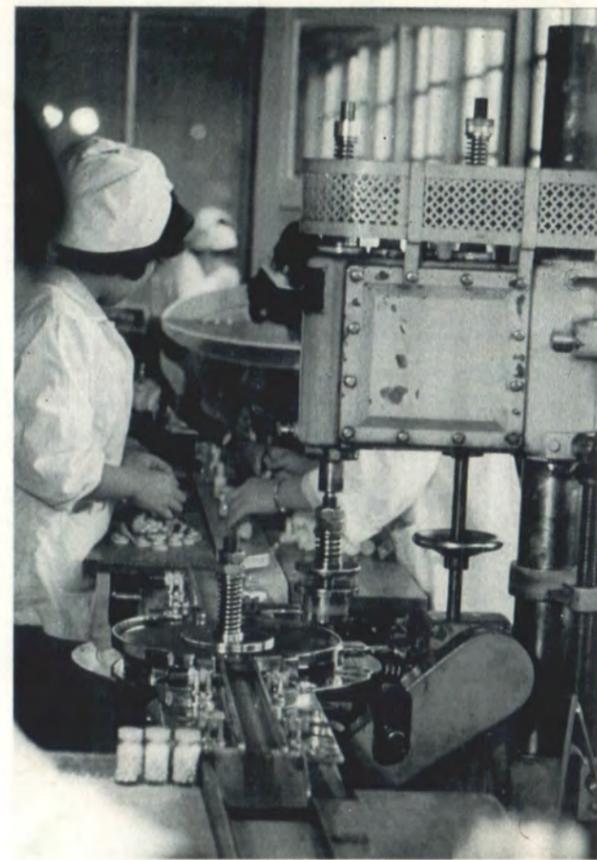
豊かな水は工業地帯へ



農工一体—黒部工業地帯—



紡績業も近代化



近代化された家庭薬工場

バット、スキーの生産日本一(福光町)



続々陸揚げされる工業原料



国際港伏木で活躍する県営ひき船「らいちょう丸」



働く人の給食センター(高岡市横田)



# 富山新港



放生津潟を中心に富山臨海工業地帯に生まれ代わる射水平野（はるかに立山連峯を望む）

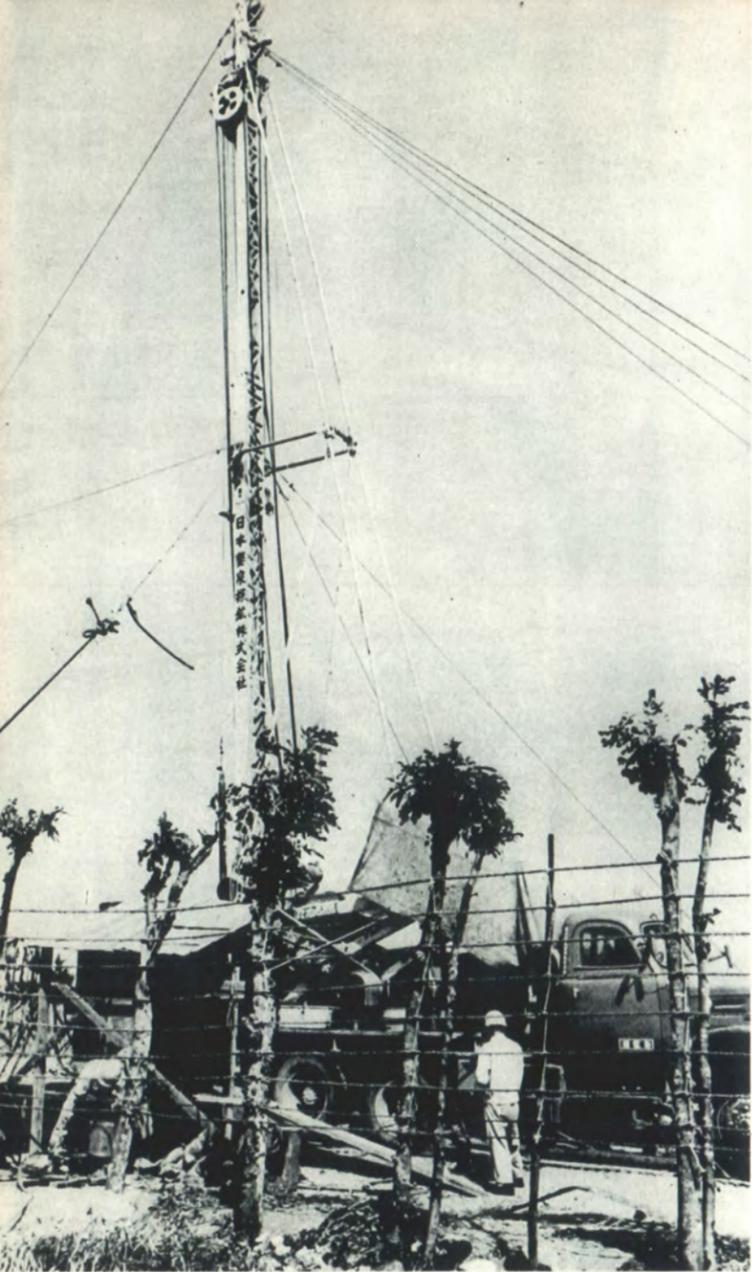
立山連峯の主峯三、〇一五メートルの雄山



## 県の山・県の花



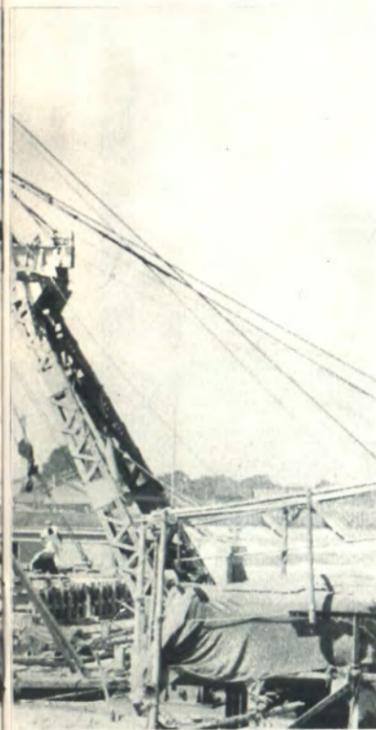
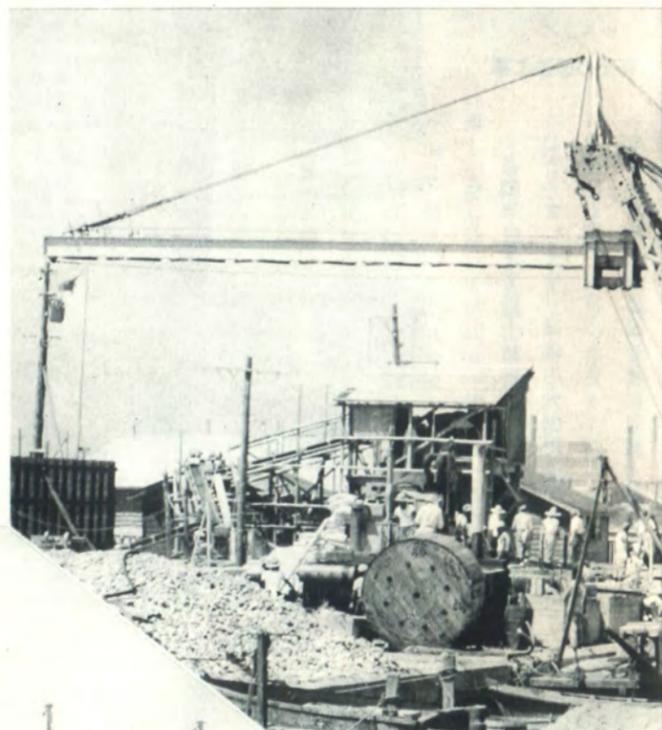
県の花「チューリップ」



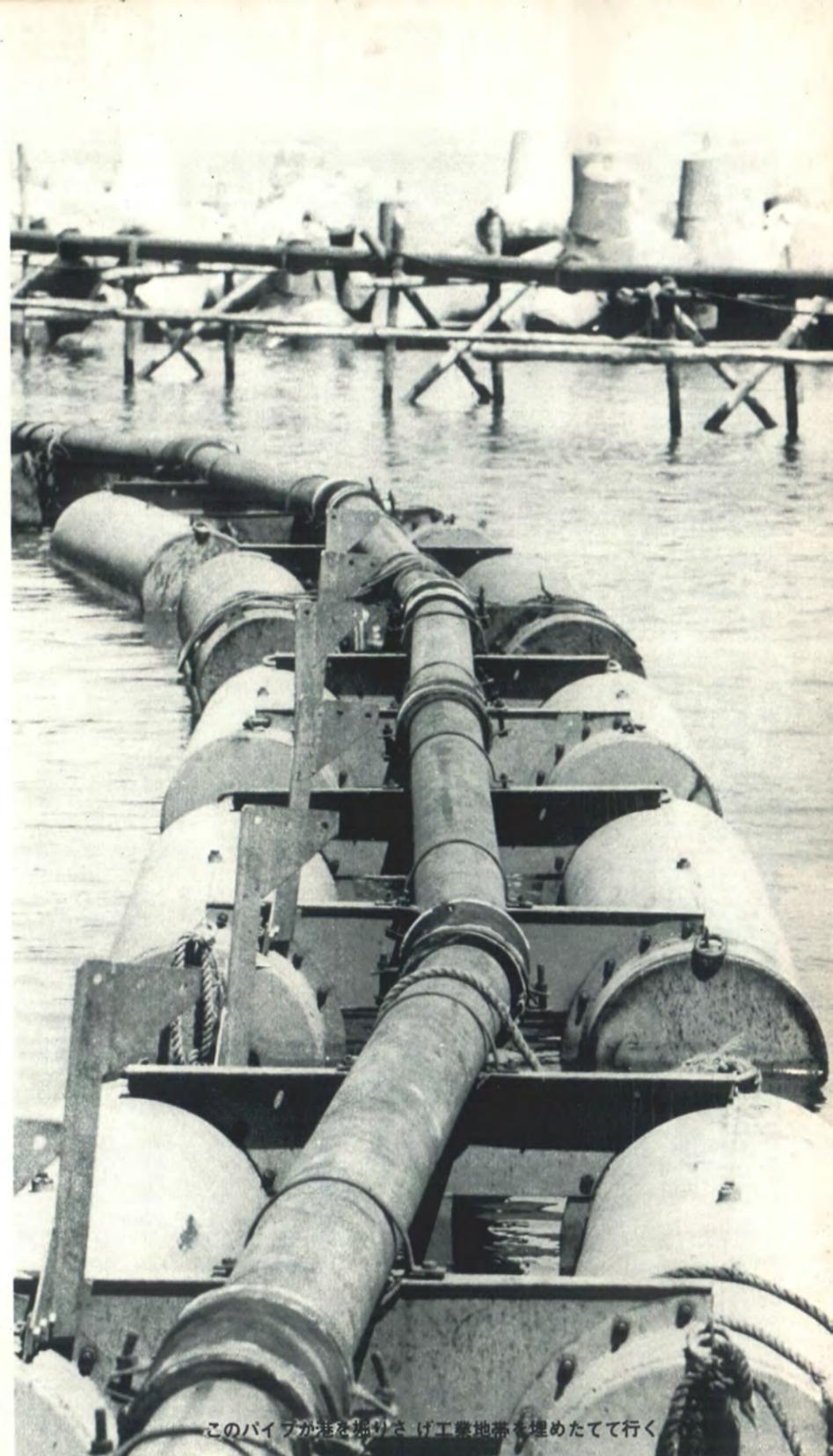
大工場の用地として耐えられるかも調査しました



空からみた富山新港現場



築港工事は急ピッチ



このパイプが港を掘りさげ工業地帯を埋めたてて行く

富山新港をとりまく大工場群の皮切りとして富山火力発電所工事始まる。



全長1キロ、東側防波堤は、ぐんぐん伸びて行く



北陸経済圏の確立を目指す富山新港建設は、45年完成を目標にいくよく着工されました。近代的な港と重化学工業を主体とした臨海工業地帯、その背後地には豊かな農業地帯と住宅地帯を造成するという県勢総合計画のカナメともなる計画です。

重化学工業を興す条件としては、大消費地に近く、原料や製品を運ぶ施設が完備し、そのうえ広大な工場用地と工業用水に恵まれ、さらに住宅地が得やすいことです。

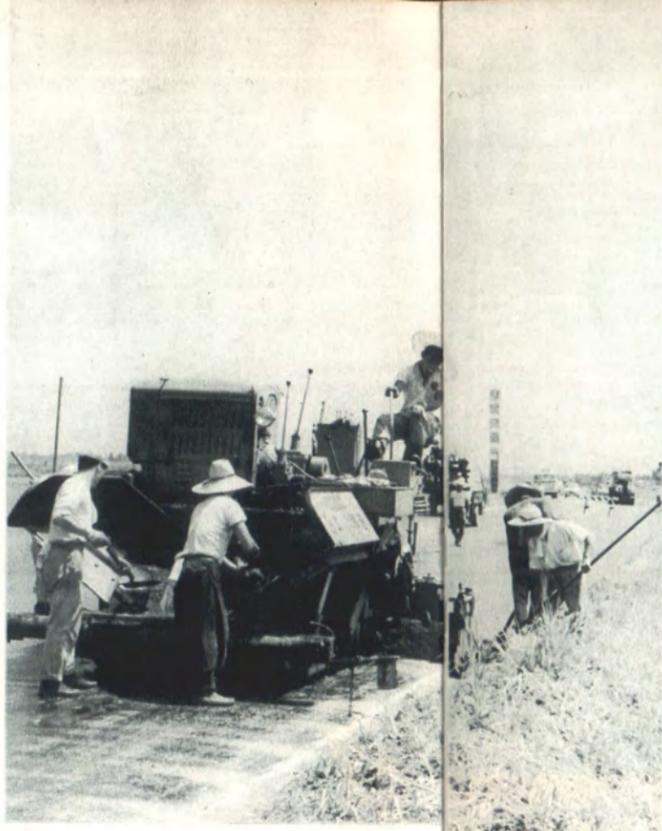
富山新港が建設される射水地域は、最もその条件を備えているのです。

富山、高岡両市を結びつける新産業都市が生まれ、富山県躍進の中核として、また北陸開発の拠点として太陽が輝き、空間がある緑の映えたニュー・タウンが出現することになります。

前進する道路と橋



弧を画いて西から東へ伸びる1級国道8号線



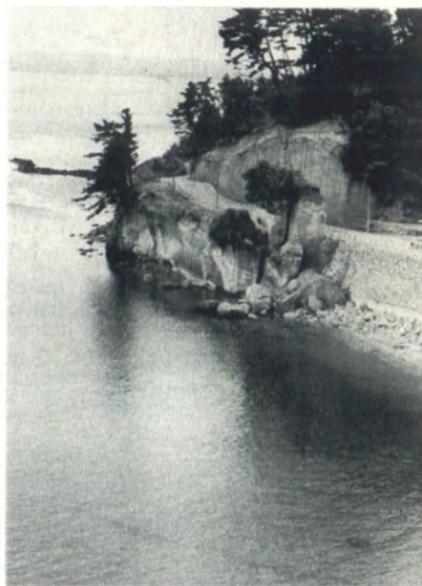
真夏の舗装工事

自動車による陸上輸送は、年々増加の一途をたどっています。産業の大動脈はいまや完備した道路と橋です。  
ところが、自動車交通量の急激な伸びにもかかわらず、道路や橋の整備は、最も重点がおかれています。事業の性質から急に良くすることはできず、まだ立ち回っています。  
しかし、県内を西から東に横断する国道8号線も一部を除いて完成し、鏡のような舗装道路が担々と続き、また41号線の改良舗装、2級国道、県道の整備も着々と進められています。また橋では40年までには、わづか一割の木橋を残して全部永久橋にかけ代えられることとなります。

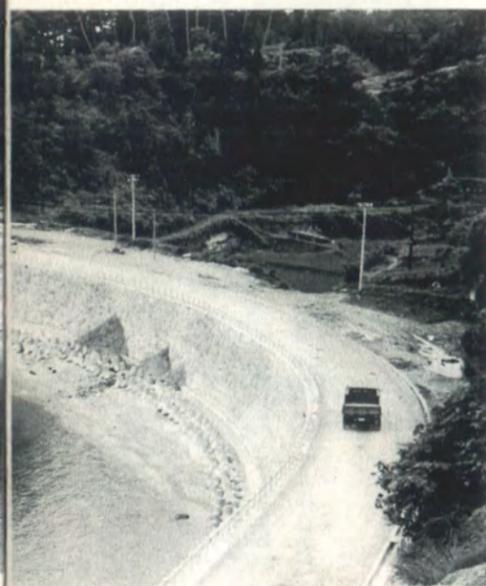
完全舗装・純白のガードレール(8号線片貝川附近)



総工費2億円で完成した大門大橋



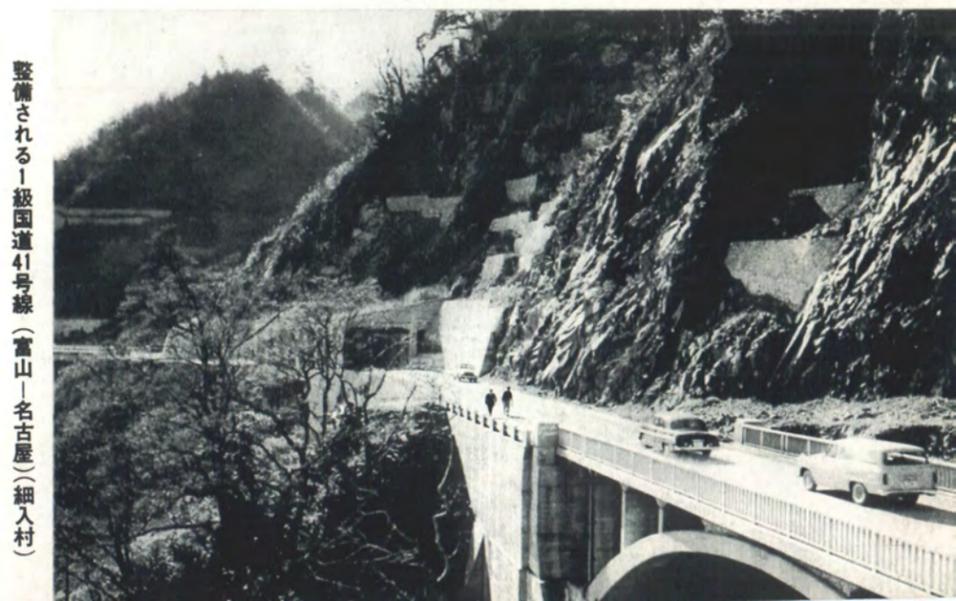
氷見海岸を走る2級国道160号線



(高岡一七尾線)



永久橋を築こう



整備される1級国道41号線(富山一名古屋)(細入村)



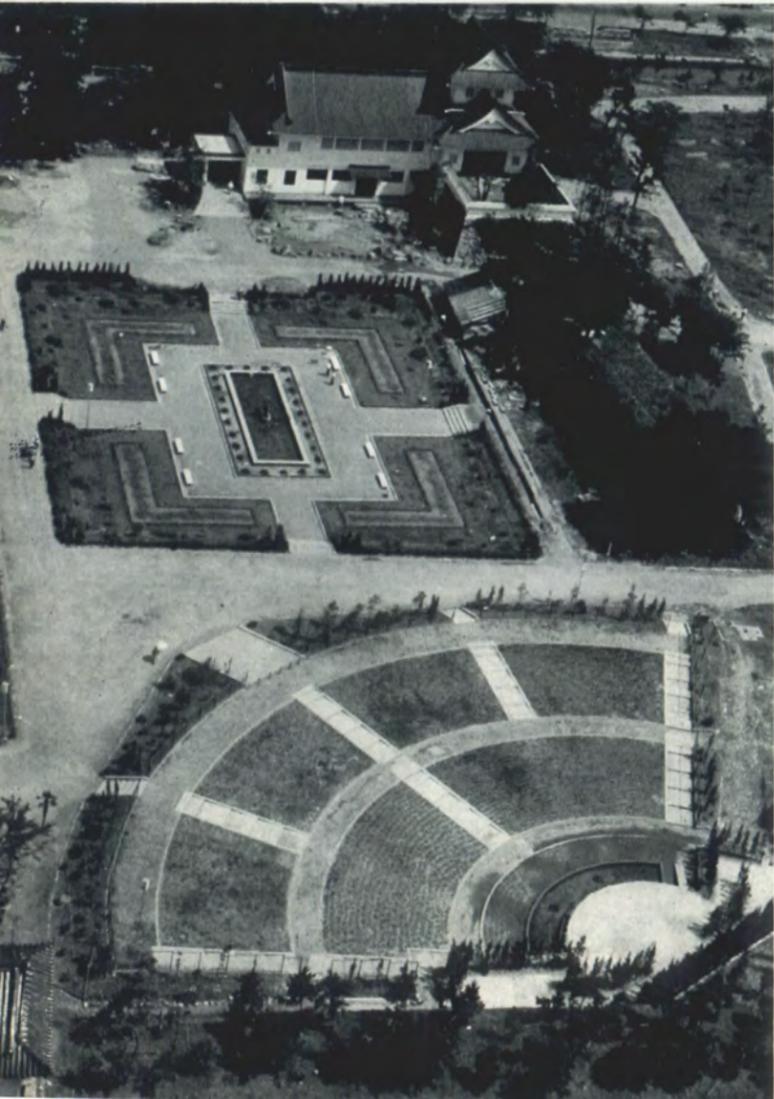
# 住みよい街

人口21万 県都富山市の街並み



# 道路・鉄道・空港

立派なハイウエーは陸上輸送の大動脈

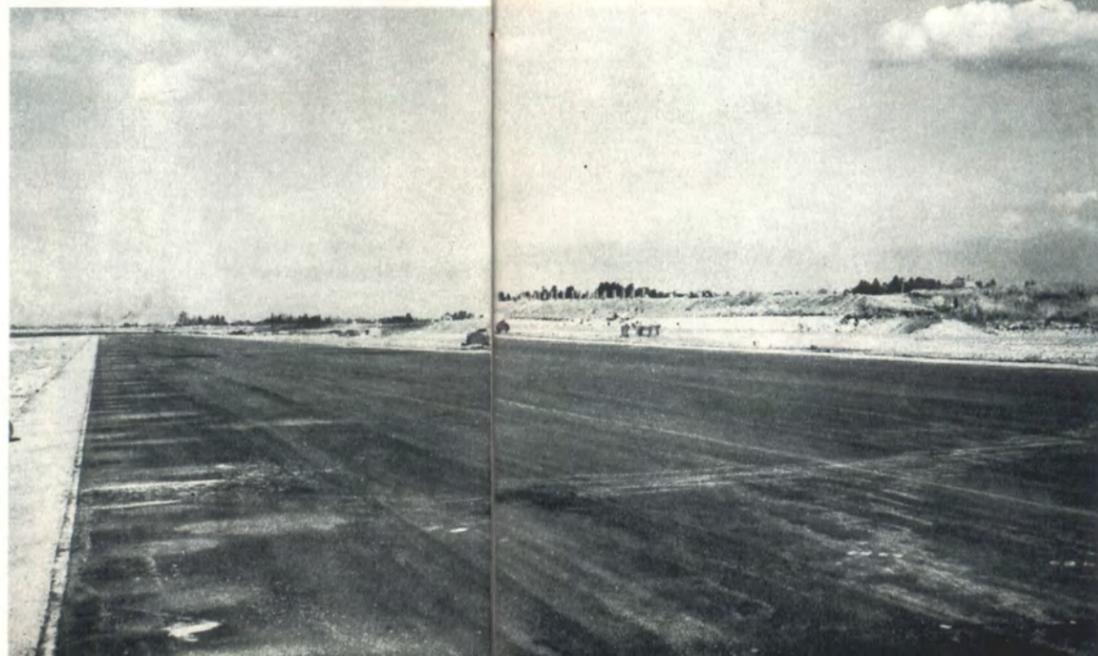


百万都市の会館—富山県民会館—(昭和39年度完成予定)

10年間に輸送需要は二、三倍にもはねあがることとなります。輸送の花形は何と云っても自動車です。現在2,100万トンの、貨物を取り扱っているのが45年には4,800万トンにもなります。次に鉄道は740万トンが1,200万トンへ、船舶は200万トンから950万トンとそれぞれ大巾な伸びが考えられ、それだけに道路の完備、北陸線の複線電化、富山新港を始め、富山、伏木港の整備とさらに富山空港の完成など、交通機関は近代化への道を力強く歩んでいます。



複線化された北陸線を行く特急「白鳥号」新大門鉄橋

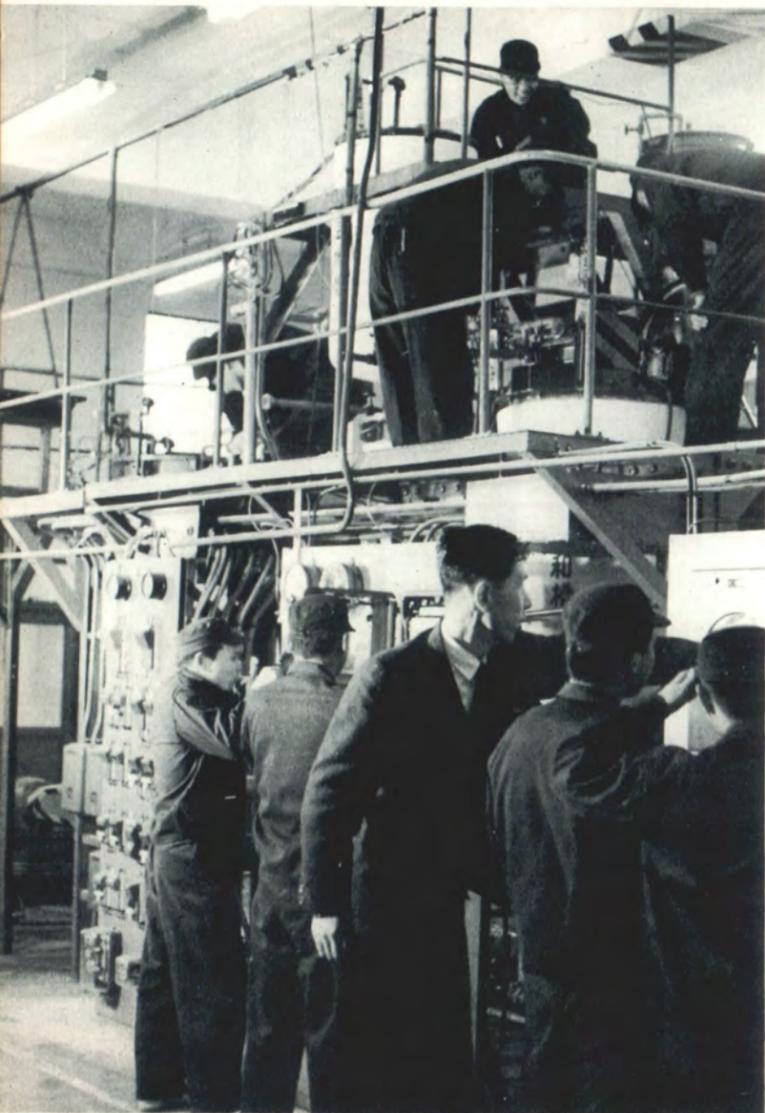


一番機を待つ富山空港

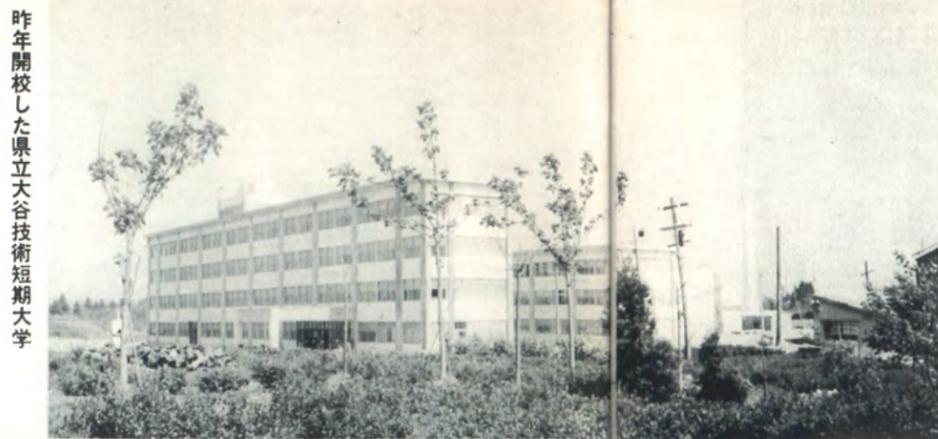
市民のいこいの場、都市公園(富山城跡公園)



県境に架けられる鉄橋(新神岡線現場)



科学技術教育の殿堂、理科教育センター



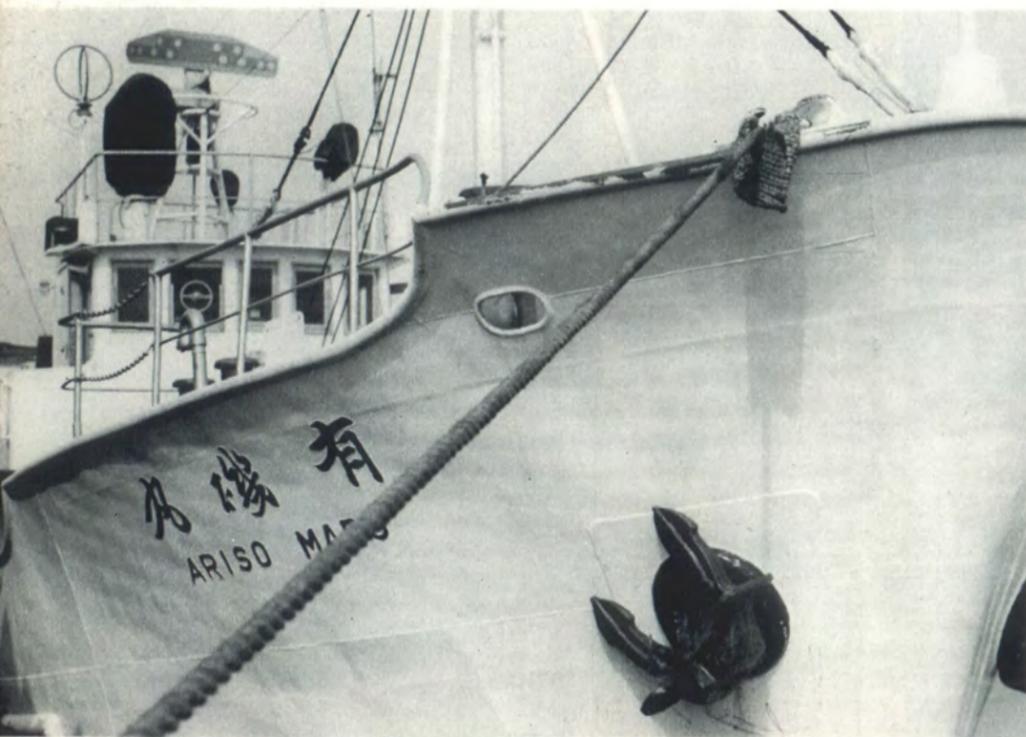
昨年開校した県立大谷技術短期大学



4Hクラブは新しい農業の担い手



科学技術教育



新しく建造された実習船「有磯丸」



自宅で働きながら学ぶ、全国でも珍しい県立産業高校

巣立つ日も間近、一富山総合職業訓練所—

「日進月歩」という言葉は、いまや産業技術の発展を示す言葉ではなくなってきました。新時代の合言葉は「技術革新」と呼ばれ、産業技術は革命的なテンポで発展を続けています。このような動きのなかにおいて将来の社会を担ってゆく青少年に、新しい産業技術を体得させることは、最も重要なことなのです。

富山県では、この世界的な潮流をいち早く察知し、全国に先がけて科学技術教育の振興に着手しました。産業教育館や、理科教育センターの建設、産業高校や、農村家庭科の新設などがあげられます。新しい科学技術は青少年たちの手で、農村へ、工場へと浸透してゆきます。また、工場は技術者の不足に悩んでいます。職業訓練所は地元産業に適した課程をふんだんに盛りこんで、技術者の養成に当たっています。さらに高度の技術者養成を目標に、県立大谷技術短期大学が37年4月開校しました。

富山、高岡工業地帯とこれを結ぶ富山新港工業地帯は、数限りない技術者を要求しています。

富山県の発展は、科学技術教育によって達成されるのです。

# 私たちの健康



保健所で赤ちゃんの定期診断

健康が生活の基礎であることはいまでもありません。病気を治し、病気にかからないようにするために、保健衛生の第一線としての保健所も充実されました。全国でも屈指の完備した県立衛生研究所も完成しました。

医療機関も県立中央病院を始め公立病院が次々と整備充実され、1万人当り80床に満たないベッドを40年までに90床までひきあげられます。また、へき地へは移動診療車で巡回するなど充実が急がれます。

ゴミや、し尿の処理も、近代的施設によって処理されるようになってきました。こうして病気を県土から追放しようという運動が続けられています。

おばあちゃんもレントゲンで健康診断



小児マヒ撲滅へ生ワクチンの投与



社会奉仕するJ・R・C「青少年赤十字」(大沢野町)

青少年の集いジャンボリー



# 青少年よすこまに

みんなで野外活動(朝日町城山キャンプ場)

次代を背負う青少年は郷土建設の土台とも、牽引力ともいえます。この青少年が健全に育つてゆくように家庭や職場、あるいは社会の人々が力を合せて努力しなければなりません。

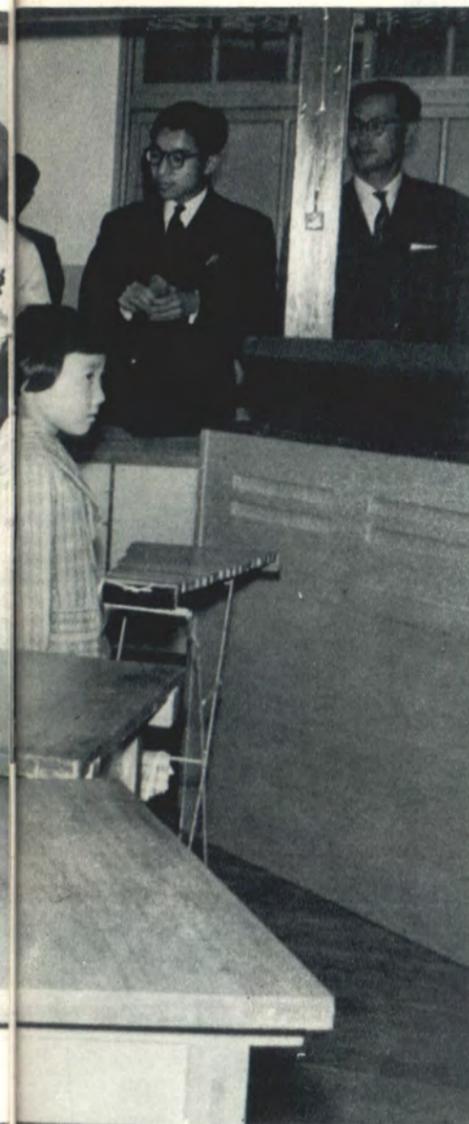
人間計画「人づくり」は、経済計画「物づくり」に優先するものでなければなりません。県民総ぐるみでこれからの富山県を背負ってゆく、心身ともに健康な機械に負けない精神をもった青少年を育ててゆきましょう。



ぼくらの遊園地ができた(富山市西新庄)



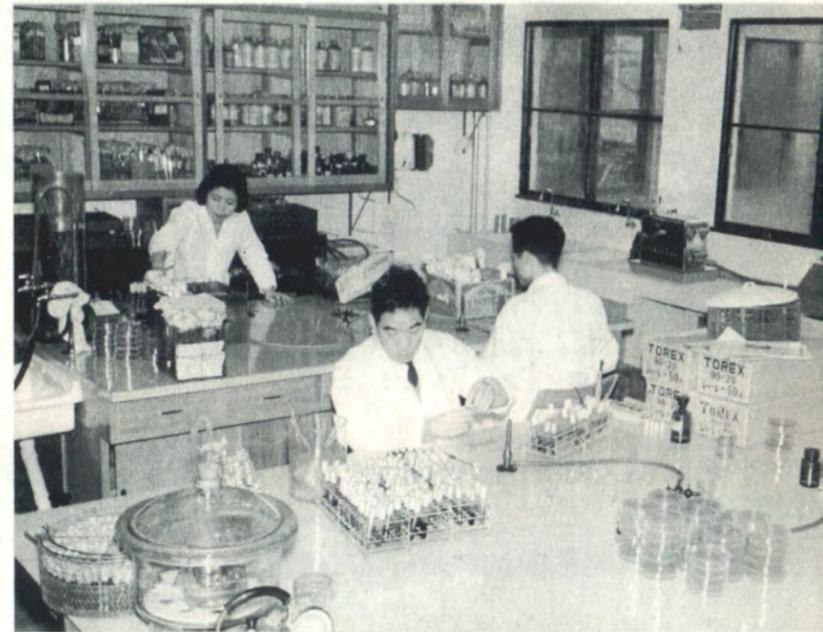
皇太子ご夫妻、手足の不自由な子らの学園「高志学園」をご訪問



歯の治療にへき地を巡回する県歯科診療車



伝染病と闘う新鋭、県衛生研究所



整備が急がれる、し尿処理場(富山市牛島)



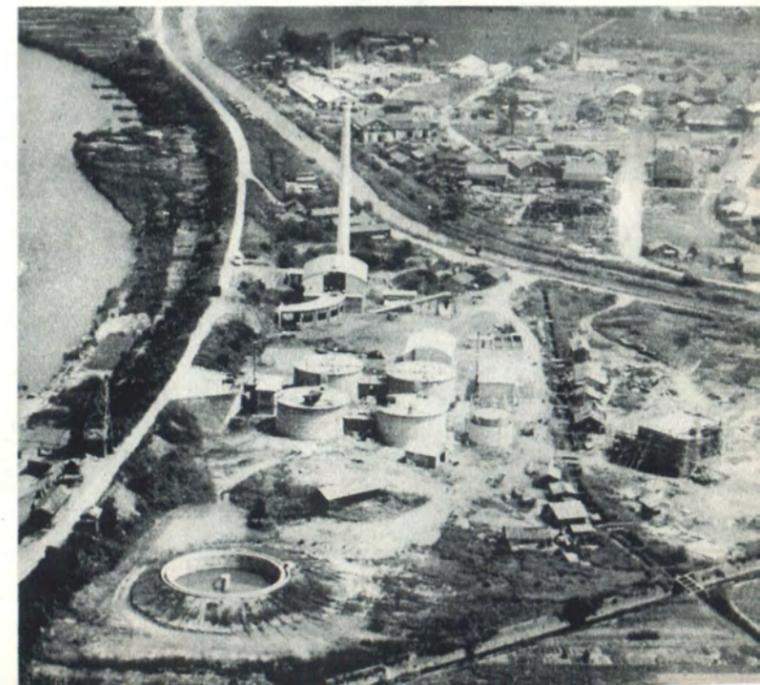
みんな仲良し(ルンビニ園)

県民ひとり残らずが、平和で豊かな生活を送り、病気や、老後の不安から解放され安心して働くことができるようにという事は重要な課題です。

生活保護を強化し、身体障害者や、低所得者が自立、更生できるように導き、老人の保護や、精神障害者の福祉にも力をそそぎます。児童の福祉としても精神薄弱児、肢体不自由児の保護や、遊園地なども完備してゆきます。



完全寝具の近代病院(高岡済生会病院)



# 交通戦争



交通事故は激増する（国道8号線大島交通検問所）



道路の横断を指導する交通指導員



こんな事故はもうごめんだ

一人でも交通事故にあわないように



自動車の数は、年々ふえる一方ですがそれに比例して事故はうなぎのぼりに上っています。「交通事故0の日」を探すことがむづかしいきょうこのころです。

国道8号線に交通検問所を設けたり、地域住民みんなで自衛に立ちあがっていますが、県でも交通安全対策にいいよ本腰を入れ、警察ばかりでなく、道路事情や運輸関係者など総合的な組織で対決してゆくことになりました。

精神薄弱児施設黒部学園について砺波に完成した砺波学園（昭和37年5月開園）



暖かい手ですくすく育つ赤ちゃん（県立乳児院）



手足の不自由な人に職業教育を（県立厚生館）



精神薄弱者の施設新生園（昭和37年12月完成）



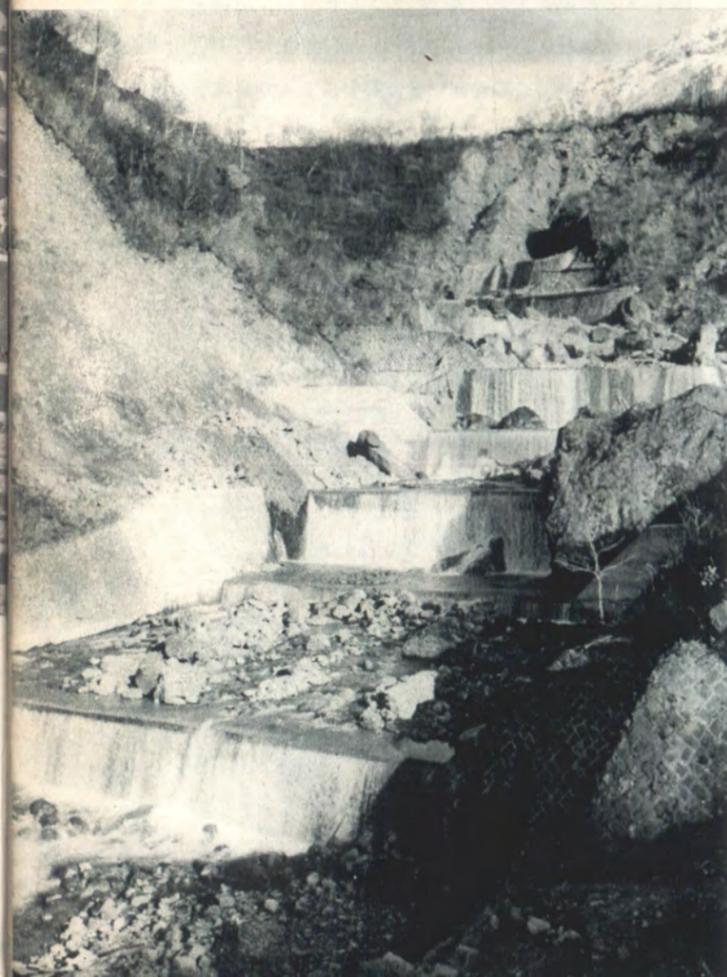
保母さんの学校（県立保育専門学校）



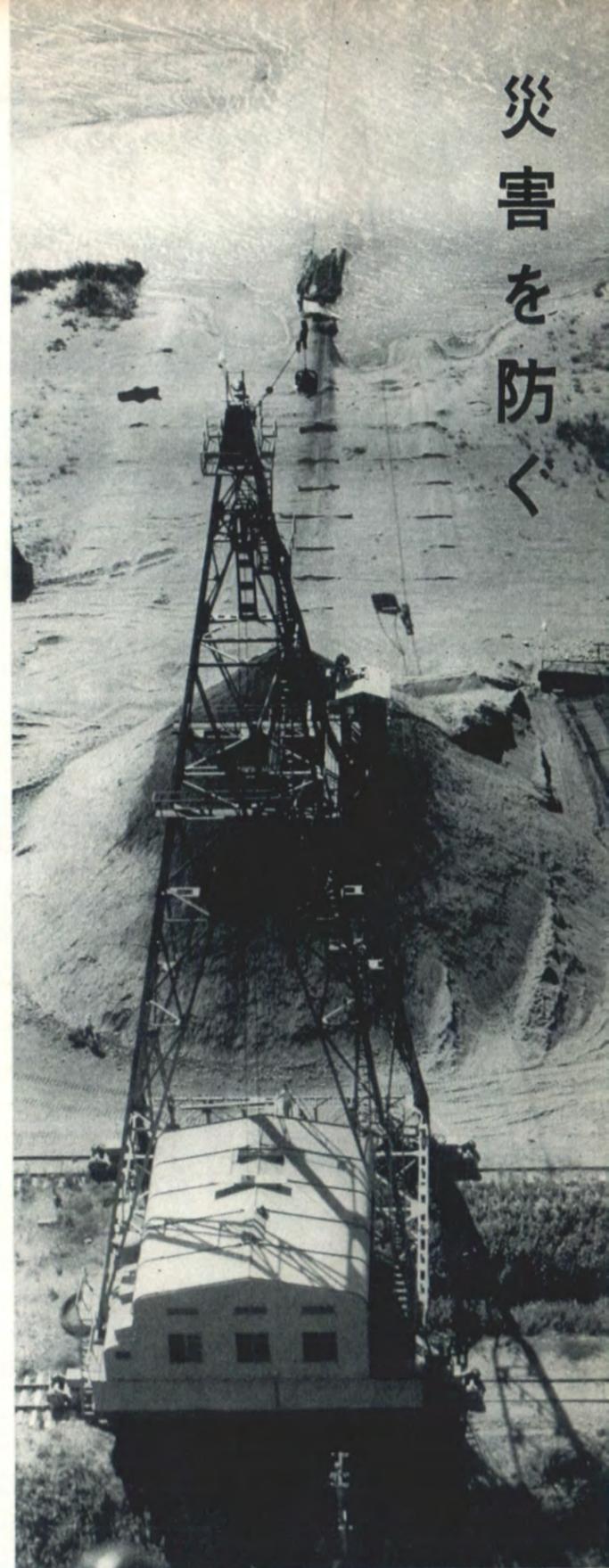
台風吹き倒された工場（昭和36年）



大出水で落ちた橋



山奥で洪水を調節する砂防ダム（泥谷えん堤群）



川床を掘り下げて洪水を防ぐタワーエクスキャベーター（常願寺川）

本県は河川が多く、そのうえ急流河川であるため洪水による災害が跡を絶ちません。こうした洪水を防止するため、荒れ果てた水源地に植林したり、土砂の流出を防ぐ砂防ダムを築いたり、川床を整理するような工事も進められています。

災害を防ぐ

富山県民グラフ 昭和38年2月1日発行

編集人 富山県  
 発行人  
 印刷 共同印刷株式会社



富山県